

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭60-29141

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)2月27日

A 42 B 1/06

7715-3B

A 41 D 21/00

7149-3B

審査請求 有 (全2頁)

⑮ 考案の名称 耳当て着脱自在帽子

⑯ 実 願 昭58-119255

⑰ 出 願 昭58(1983)7月29日

⑱ 考 案 者 黒 須 剛 東京都台東区小島1丁目2番11号

⑲ 出 願 人 クロスキャップ株式会社 東京都台東区小島1丁目2番11号
社

⑳ 代 理 人 弁理士 若 林 祐

㉑ 実用新案登録請求の範囲

柔軟な連結帯1の両端に耳当て部2、2'を連結し、該耳当て部2、2'の表側にはボタン、ホック、マジックフアスナー(登録商標)等適宜の係止具3、3'を、また先端には顎紐又はベルト4、4'を設けて耳当て5と成し、帽体6の内側に設けた係止具7、7'と前記耳当て5の係止具3、3'とを着脱自在に係合できるようにした耳

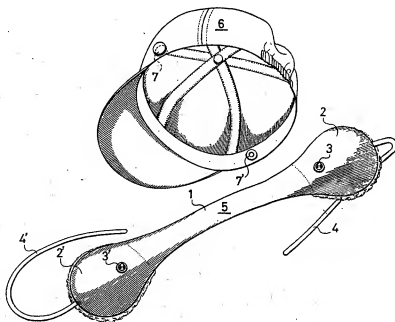
当て着脱自在帽子。

図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は帽体及び耳当ての斜視図、第2図は使用状態を示す斜視図である。

1……連結帯、2……耳当て部、3……係止具、4……顎紐又はベルト、5……耳当て、6……帽体、7……係止具。

第1図



第2図



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-29141

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)2月27日

A 42 B 1/06

7715-3B

A 41 D 21/00

7149-3B

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 耳当て着脱自在帽子

⑯ 実 願 昭58-119255

⑰ 出 願 昭58(1983)7月29日

⑱ 考 案 者 黒 須 剛 東京都台東区小島1丁目2番11号

⑲ 出 願 人 クロスキャップ株式会社 東京都台東区小島1丁目2番11号
社

⑳ 代 理 人 弁理士 若 林 弘



明 細 書

1. 考案の名称

耳当て着脱自在帽子

2. 実用新案登録請求の範囲

- 1) 柔軟な連結帯(1)の両端に耳当て部(2)(2')
(登録商標)
を建設し、該耳当て部(2)(2')の表側には
ボタン、ホック、マジックファスナー等適宜
の係止具(3)(3')を、また先端には顎紐又は
ベルト(4)(4')を設けて耳当て(5)と成し、
帽体(6)の内側に設けた係止具(7)(7')と前
記耳当て(5)の係止具(3)(3')とを着脱自在
に係合できるようにした耳当て着脱自在帽
子。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、耳当てを着脱自在とした帽子に
関する。

近年、スキー、スケート等のウィンタース
ポーツに於いて、防寒用の耳当てや髪の乱れ
防止の帽子が広く着用されている。

然るに従来の耳当てと帽子は、夫々単に個別の機能を果すことだけを目的として開発されており、これらを兼用できるものは無く、またこれらを併用する場合、その構成上、帽子の上から耳当てをするしか無く、耳当てを脱落させたり、またスキーで滑降中に風圧を受けて帽子と共に耳当てが吹き飛ばされることもあり、間々これらを紛失することがあった。

本考案は、このような事情に鑑み開発されたもので、耳当てを帽子内側に着脱自在とすることにより、これらを兼用できるようにし、前記欠陥の一掃を図ったものである。

本考案に係る耳当て着脱自在帽子につき説明するに、その構成は、柔軟な連結帯(1)の両端に耳当て部(2)(2')を連設し、該耳当て部(2)(2')の表側にはボタン、ホック、マジックファスナー等適宜の係止具(3)(3')を、また先端には顎紐又はベルト(4)(4')を設けて耳当て(5)と成し、帽体(6)の内側に



設けた係止具(7)(7')と前記耳当て(5)の係止具(3)(3')とを着脱自在に係合できるように、したことを特徴とする。

以下本考案を図面に示す一実施例に基づいて説明する。

図中(1)は連結帯であり、柔軟性を有し、本実施例では布を用いている。なお、この連結帯(1)をマジックファスナー等により長さ調整自在にすると尚良い。

(2)(2')は耳当て部であり、表側にはボタン、ホック、マジックファスナー等適宜の係止具(3)(3')を設け、該耳当て部各先端には脱落防止用の顎紐又はベルト(4)(4')を設けてあり、この耳当て部(2)(2')は連結帯(1)の両端に連設される。

本実施例では耳当て部(2)(2')を連結帯(1)と同じ布で一体に連設してある。なお、耳当て部(2)(2')の裏側に毛皮及びボア等を縫着することにより一層の防寒効果を得られる。

(5) は耳当てであり、連結帯(1) , 耳当て部(2)(2') , 係止具(3)(3') , 顎紐(4) 等から成る。

(6) は帽体であり、内側に係止具(7)(7') を設けてあり、耳当て(5) の係止具(3)(3') と着脱自在に係合できるように構成されている。

以上のような構成からなる本考案は次のような効果を有する。

本考案は、耳当て(5) を帽体(6) の内側に着脱自在に係合されているので、これら二つを兼用できる。

すなわち、本考案は帽子と耳当てを併用することもできるし、または耳当てを完全に外して帽子だけにすると全く通常の帽子と変わらず、あるいは帽子を取って耳当てだけでも使用することができ、極めて融通性がある、さらに帽子内側に顎紐を設けた耳当てに係止すると、耳当てだけを紛失することがなく、帽子と共に耳当てを吹き飛ばされることも無



い、極めて機能的で実用的な耳当て着脱自在な帽子の考案である。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は帽体及び耳当ての斜視図、第2図は使用状態を示す斜視図である。

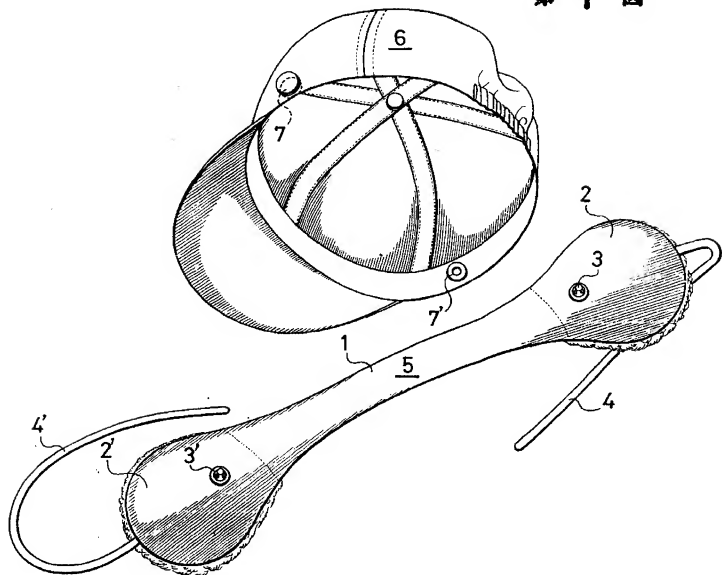
- 1 . . . 連結帯
- 2 . . . 耳当て部
- 3 . . . 係止具
- 4 . . . 顎紐又はベルト
- 5 . . . 耳当て
- 6 . . . 帽体
- 7 . . . 係止具

実用新案登録出願人 クロスカップ株式会社

代理人 弁理士 若 林



第 1 図

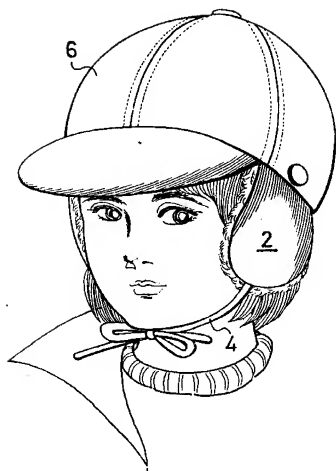


290

実用新案登録 出願人・ クロスキャップ 株式

代理人 弁 理 士・ 若 林

第 2 図



291

実用新案登録 出願人・ クロスキャップ株式会社

代理人 弁理士・ 若 林

拓